

ファンドの特色

当ファンドは、主として償還条件が米ドル・円為替レートの水準により決定するユーロ円債に投資を行い、信託財産の安定的な収益を確保することを目指します。当該ユーロ円債を高位に組入れることを基本とし、以下の特色があります。

①条件付で元本確保をめざします ※ 期中評価日(平成22年2月10日)において判定水準(90.39円)以上の円高となりました。
 期中評価日の米ドル・円為替レートが、設定時の水準(当初為替)より25円以上円高にならなければ、元本の103%程度を確保して償還することをめざします。ただし、期中評価日の米ドル・円為替レートが一度でも[当初為替-25円]以上の円高になり、かつ繰上償還にならなかった場合、当初為替と計算日為替の変動率に連動した償還となります。(この場合、償還額は投資元本を下回る可能性があります。)

②年2回(2月と8月)分配金の支払いをめざします
 1年目約800円、2年目約50円、3年目以降年約10円の分配金が支払われる予定です。(1万口あたり、税引前)

③年2回繰上償還の可能性があり
 約1年後以降、年2回の期中評価日の米ドル・円為替レートが、早期償還条件水準以上の円安であれば、元本を確保して繰上償還することをめざします。

【用語解説】

期中評価日: 信託期間中において、定期的に米ドル・円為替レートを確認し、当ファンドが設けている条件を充足しているかどうかをチェックする日をいいます。設定日から約1年後に最初の期中評価日を迎え、それ以後は6か月ごととなります。

当初為替: 115.39円(ファンド設定日である2007年9月7日の東京時間午前10時における米ドル・円為替レートです。)

計算日為替: 計算日(2014年8月12日)の東京時間午前10時における米ドル・円為替レートをいいます。

早期償還条件水準: 期中評価日において、ある水準以上の円安になった場合、満期を待たずにファンドは繰上償還されますが、その場合の判断の基準となる米ドル・円為替レートをいいます。最初の期中評価日には、当初為替+1円の水準が判断基準となり、それ以後は6か月ごとに1円ずつ円高の水準に設定されます。

ファンドの概況		(平成23年12月30日)
基準価額	6,158 円	
純資産総額	104 百万円	
設定日	平成19年9月7日	
決算日	毎年2月、8月の各25日 (休業日の場合は翌営業日)	
償還日*	平成26年8月25日	
当初為替	115.39円	

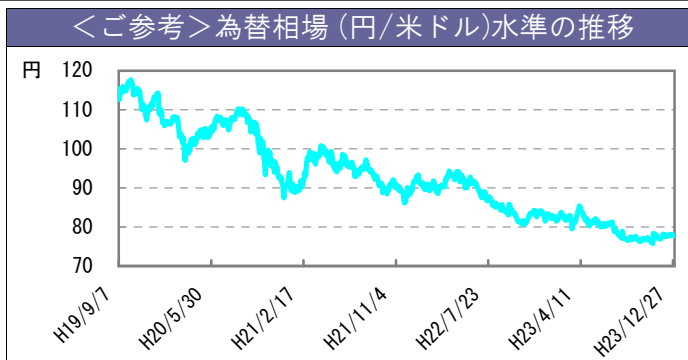
*ファンドは繰上償還する可能性があります。

ファンドの組入れ状況		
運用資産	比率(%)	
ユーロ円債 (発行体:SGA ソシエテ ジェネラル アクセプタンス N.V.)	99.3%	
現金等	0.7%	
合計	100.0%	

*SGA ソシエテ ジェネラル アクセプタンス N.V.は、仏系銀行ソシエテ ジェネラルの100%子会社です。ソシエテ ジェネラルは、フランスを本拠地とする100年以上の歴史を有する銀行です。

分配実績 (設定来合計 868円)				
1年目	平成20年2月	400円	平成20年8月	400円
2年目	平成21年2月	25円	平成21年8月	25円
3年目	平成22年2月	5円	平成22年8月	4円
4年目	平成23年2月	4円	平成23年8月	5円
5年目	平成24年2月	-	平成24年8月	-
6年目	平成25年2月	-	平成25年8月	-
7年目	平成26年2月	-	平成26年8月	-

*分配金はいずれも1万口あたり税引前の金額です。



期中評価日	評価レート	早期償還条件水準
平成20年8月12日	110.21円	116.39円
平成21年2月10日	91.15円	115.39円
平成21年8月12日	95.94円	114.39円
平成22年2月10日	89.91円	113.39円
平成22年8月12日	85.08円	112.39円
平成23年2月14日	83.29円	111.39円
平成23年8月12日	76.95円	110.39円
平成24年2月13日	-	109.39円
平成24年8月13日	-	108.39円
平成25年2月8日	-	107.39円
平成25年8月12日	-	106.39円
平成26年2月10日	-	105.39円

*期中評価日は平成19年7月20日現在の予定です(法令の変更等により休業日に変更された場合には、この限りではありません)。

<お知らせ>
 期中評価日(平成22年2月10日)において、判定水準(90.39円)以上の円高となりました。これにより、今後どの期中評価日においても早期償還条件水準以上の円安にならなかった場合、満期償還時の価格は当初為替と計算日為替の変動率に連動した価格となります。

為替(米ドル/円)コメント

12月の外国為替市場は、月を通して1ドル78円を挟んでの揉み合いが続きました。一方で、欧州債務問題の解決に向けて注目されていたEU(欧州連合)首脳会議では、財政規律強化合意が発表されたものの即効性に乏しいとの見方が優勢となり、ユーロが全面安となりました。ドル円は比較的狭い範囲での値動きに留まり、1ドル77円74銭で終了しました。

当資料は、運用状況に関する情報の提供を目的としてユニテッド投信投資顧問が作成したものであり、投資勧誘を目的として作成したものではありません。当資料中の過去の運用成績、運用内容は将来の運用成果、運用内容を保証あるいは示唆するものではありません。投資した資産価値の増減は全て受益者の皆様に帰属します。